

11月27日から16日間に渡り、オンライン・市内各地で分散開催をした「まちカフェ！」。地域活動団体のみなさんが、これまでの経験を生かし、趣向を凝らしたイベントを開催しました。今年は、開催日初日に参加団体の協働プロジェクトとして、2つのオープニングイベントにも挑戦。広く一般の方にも地域活動の魅力や醍醐味をお届けしながら、団体の枠を越えて交流や協働をする機会にもなりました。次号のサポートオフィス通信では、「まちカフェ！」の開催準備からイベント実施までを振り返る特集をお届けします。お楽しみに！

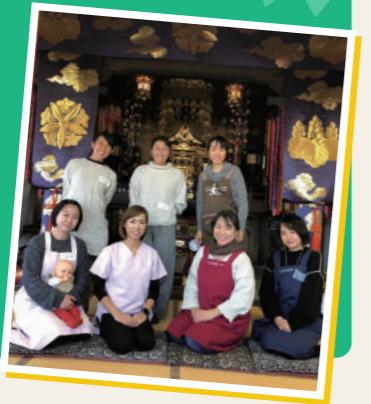
### ~オープニングイベント~ オトパ in まちだ

人生100年時代、地域活動を始めるキッカケづくりの一環として行われたイベント「オトパ」。講演会や出展ブース巡りには、たくさんのお客様がお越しください、熱心に話を聞いていらっしゃいました。



### ~リアルイベント~ 地元の助産師と繋がろう！

祥雲寺で開催された、今年初参加となる町田市助産師会主催のイベント。助産師会の取組の説明や相談ブース、開業助産師による「ちょっと不思議な整体」コーナーなど、地域の助産師さんと話し合える素敵な空間でした。



## 第15回 町田市市民協働フェスティバル 「まちカフェ！」を開催しました！

### ~オープニングイベント~ 「まちカフェ！」マルシェ

15団体が参加した「まちカフェ！」マルシェ。販売だけではなく、ワークショップや体験会も実施。活動内容を丁寧にお伝えしながら、想いのこもった一品を販売する様子が印象的でした。



### ~オンラインイベント~ からふるオンライン公園 みんなで違いを楽しもう

初参加で団体協働企画を実施した〈地域活動からふい～〉と〈カワセミのお引越しキャラバン隊〉。2団体によるオンラインイベント「からふるオンライン公園みんなで違いを楽しもう」は、「公園」というイベントタイトルの通り、多様な年齢層・立場の方が集い、想いを語り合うイベントになりました。



このほかにも、35を越えるイベントがオンラインや市内各地で分散開催されました。各イベントの開催レポートは「まちカフェ！」公式Facebookで公開中。ぜひご覧ください！



まちだづくりのコミュニケーション誌

# サポートオフィス通信

vol.24

2021.12

TAKE FREE

町田市地域活動  
サポートオフィス

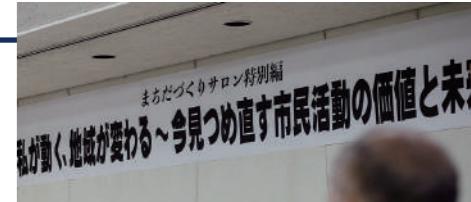
## 今月のコンテンツ

10月23日、NPO法設立の立役者の一人である山岡義典さんをお招きしたまちだづくりサロン特別編「私が動く、地域が変わる～今見つめ直す市民活動の価値と未来」を開催しました。今回のサポートオフィス通信では、地域活動を進める醍醐味や魅力、そして活動を継続するための数々の視点が散りばめられた講演会の様子を特集します。活動のヒントになさってください。



## Now! | まちだづくりサロン特別編

「私が動く、地域が変わる～  
今見つめ直す市民活動の価値と未来」を開催しました！



気持ちのいい秋晴れの中、わくわくプラザ町田で開催したまちだづくりサロン特別編。サポートオフィス主催のリアルイベントとしては、約1年9ヶ月ぶりの開催となり、50名を超える方にご参加いただきました。第一部は法政大学現代福祉学部で教鞭をとられていた山岡義典さんによる講演会、第二部では山岡さんの教え子であり市内でNPO法人プラスを運営している高井大輔さん、同大学現代福祉学部を卒業したサポートオフィススタッフ橋本空の3人による法政大学多摩キャンパス3世代鼎談を実施しました。山岡さんによる講演では、「図解で学ぶ市民活動」、「イメージとしての市民活動(事例紹介)」、「市民活動の価値と未来」の3つの話題についてお話をいただきました。



①第一部の山岡さんの講演会の様子。図解や事例を数多く用い、市民活動組織の展開プロセスやその価値について具体的なお話をいただきました。

②第二部の鼎談の様子。高井さんと橋本が活動紹介をした後、山岡さんに聞いてみたいことを1つずつ伺い、その後は会場の皆さんからの質疑応答タイムに。活発な意見交換が行われました。



③鼎談で自分が代表を務めるNPO法人プラス(<http://npoprunus.com/>)の多岐にわたる活動をご紹介くださった高井大輔さん。

④サポートオフィススタッフの橋本空。

⑤終了後には写真撮影。学生や地域で何十年も地域活動を行っている方など、様々な方にお集まりいただきました。

講演会終了後も写真撮影をしたり、個人的に山岡さんに質問をする方がいたり、久々の再会を喜んだり…と和やかな雰囲気が続きました。サポートオフィスでは今後も、市民活動について学び、交流する機会を企画していくたいと思います。

次ページで、第一部の講演会内容のダイジェストをお届けいたします。



# Report | まちだづくりサロン特別編 第一部

第一部の山岡さんの講演では、「図解で学ぶ市民活動」、「イメージとしての市民活動(事例紹介)」、「市民活動の価値と未来」をテーマに、概念図や事例などを用いてお話しいただきました。

本稿では「市民活動組織の展開プロセス」と「地域社会における参加と協働」、そして「市民活動の価値と未来」についてご紹介します。



## PROFILE

### 山岡義典さん

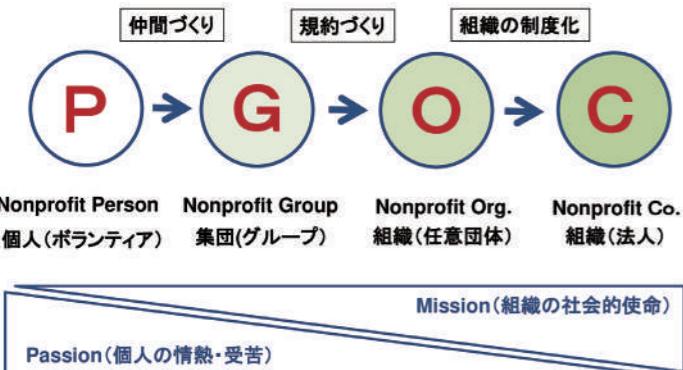
特定非営利活動法人市民社会創造ファンド理事長、公益財団法人助成財団センター理事長。特定非営利活動法人日本NPOセンター顧問。法政大学現代福祉学部開校講師より法政大学教授、現名誉教授。専門は非営利組織論、都市・地域計画論。著書に『時代が動くとき—社会の変革とNPOの可能性』(単著)、『市民社会セクターの可能性: 110年ぶりの大改革の成果と課題』(共著)。

今日は、市民活動というのはどんなもので、どういう価値があるて、未来に向けて何をしないといけないかということをお話しします。まずは概念図を使って、市民活動とはどんなものかについてご説明します。

## 市民活動組織の展開プロセス

市民活動はいろいろな形で行われます。1つは個人(Person)。ボランティアとも言いますけど実際にはボランティアという意識のないものも多い。個人で活動をしているとだんだん仲間ができる

図1) 市民活動組織の展開プロセス  
～個人のパッションから組織のミッションへ～



きて、グループ(Group)になる。さらに次の段階として、規約を作り、代表や会計などの役割を設定すると組織(Organization)になる。いわゆる法人格のない組織ですね。そして今から20数年前の1998年に特定非営利活動促進法(NPO法)が制定され、法人格を持って登記することができるようになり、法人(Corporation)が誕生しました。その結果、契約・取引、あるいは行政や企業との協働が広がったのです。

図1)では、P(個人)からC(組織「法人」)という順番で表現していますが、PよりもG、GよりもO、OよりもCが良いというものではありません。社会の中で一番良いのはPもGもOもたくさんある社会、そしてCに行こうと思えばCとして自立し活動できること。さまざまな市民活動の担い手が存在しているのが豊かな社会だろうと思います。

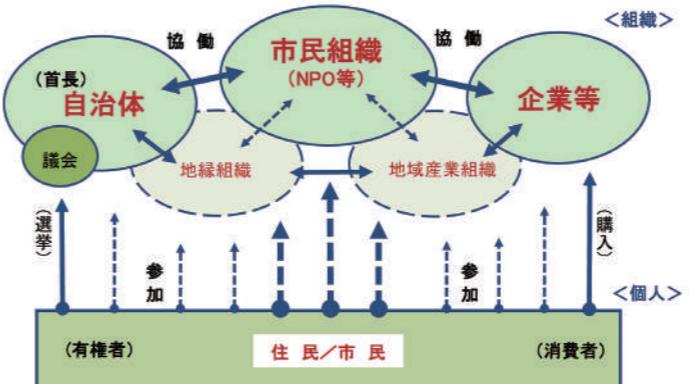
活動の進め方でいうと、Pは個人ですからPassion(やるぞ!やりたい!)という、理屈抜きで個人の好きなことができる。それがグループになるとメンバー内や外の人と共有する必要が出てくるので個人のPassionから組織としてのMission(社会的使命)というものが重要となってくる。特にCになった場合はその社会的使命が外からきちんと見えるということが重要になりますね。

## 地域社会における参加と協働について

市民社会の実現には、「参加」と「協働」が欠かせません。「協働」は、異質な組織同士が共通の社会的目的を果たすためにそれぞれのリソースを持ち寄り、対等な立場で協力して共に働くこと、「参加」は、個人が責任を持って組織の企画や活動にかかわることです。そして、「参加」は「協働」の土台です。「参加」があつて初めて「協働」が有効に働くという関係なのです。

「参加」や「協働」を促進するには、学習が必要です。そして学習には情報が必要ですよね。つまり「参加」も「協働」も情報公開がきちんとできていないと実現しない。この点は非常に重要です。

図2) 地域社会における参加・協働の構図



## 市民活動の価値と未来

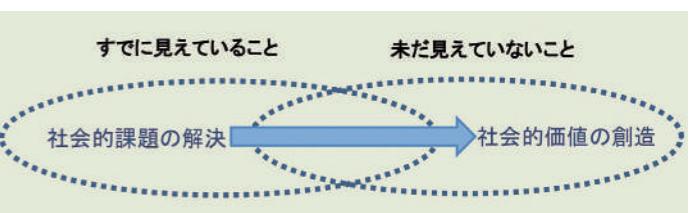
「市民活動の価値」は、3点あると考えています。

1点目は、「市民性」と「当事者性」と「専門性」が結びつき、影響しあい、立場を越えた交流ができることです。例えば医療に関して、当事者(患者)と専門家(医者)だけだったら対立関係になってしまいます。そこに市民が入ると3つの良い関係ができます。そうした中で、市民が当事者に近づいたり、当事者が専門家に近づ

いたりしてくるのです。そうした立場を越えた交流は、市民活動じゃないとできない価値です。

2点目は、まだ見えない価値や新しい視点を自由に創造していくことです。まだ見えていない社会的課題への気づきや自由で創造的な取り組みが、結果的に課題解決に役立ったり、課題の発生を抑止したりすることができます。見えている課題の解決とともに未だ見ぬ価値の創造に取り組むことが重要です。

図3) 社会的課題の解決から社会的価値の創造へ



3点目は何よりも楽しく活動することが大切だということです。成果が出ることは楽しいですが、一方で成果や課題解決を急ぎすぎると、辛く苦しい活動になってしまいます。成果が出ることも大事にしつつ、一方で「成果なんてどうでもいいよ、これ大事だからやっていこう」ということを「ごちゃまぜ」にしている市民活動の方が、長持ちするのではないでしょうか。「ごちゃまぜ」は合理的じゃない。だけど市民活動は少々効率が悪くても「ごちゃまぜ」でやっていたほうが楽しいし、いざと言うときに強いのではないかと感じています。

以上の3点は、私が自身の活動も含めずっとと思っていたことを改めて整理したものです。この3点が今一度、きちんと理解されることが市民活動の価値と未来を考えるうえで重要ではないかと考えています。

## CHECK!

第一部講演会と第二部鼎談の全文は、サポートオフィスHPで公開しております。

